

6 6群土器 (図64~65, 表13, 写真16)

本遺跡からは、前期以降に属する縄文土器も少量出土しているので、その概要を以下に記載する。

1~6は前期土器。九州を主たる分布域とする轟式と、瀬戸内の羽島下層式が見られる。1は轟式で、隆起線や口縁の特徴などから見て轟2式に属するものであろう。2は隆起線がみられないが、全体的な感じは1に類似する。3は丸みをおびた胴部の破片で、ジグザグに刺突が加えられている。4は口端を欠損するが、羽島下層I式の口縁部直下の破片とみられ、胎土には黒雲母が少量含まれる。5, 6は胴部の小片だが、胎土や器面調整などからみて前期に属するものと考えられる。

7は粗い縄文がつけられた胴部の小片で、船元I式の可能性がある。

8~21は後期土器。中津式を主体とする。8, 9は同一個体で中津II式の磨消縄文土器である。口縁端は平坦につくられており、この部分にも縄文が施されている。11, 12は沈線のみによって文様が描かれる中津式で、縄文施文のものに比べて作りは粗雑である。16, 17の無文土器は器壁に厚みがあり、角張った口縁形態を呈する。18はやや上げ底気味につくられた底部。16~18も中津式にともなうものと考えてさしつかえないものである。22は晩期後半の刻目突帯文土器で、口縁外端と突帯上に刻み目がつけられている。

(山崎真治)

表13 6群土器観察表

図No	色	焼成	内容物	部位	成形・調整・文様	調査次	調査区	層位	型式	所蔵	注記
1	褐灰色	良	石英少	口縁	条痕, 微隆起線, 口縁上刻み	2?	C区1トレ	3	轟2式	M	
2	灰褐色	良	石英・長石少	口縁	条痕	2?	C区1トレ	1	轟2式?	M	
3	赤褐色	良	石英・黒雲母少	胴部	条痕, 刺突文	不明	不明	不明	西川津式?	T	
4	黄橙色	良	石英・長石・黒雲母少	胴部	突帯, 刺突文	不明	不明	不明	羽島下層I式	T	
5	暗赤褐色	良	石英・長石・黒雲母少	胴部	条痕	3	A人骨周辺	4層	羽島下層?	K	42
6	褐/赤褐色	良	石英・長石少	胴部	条痕	不明	不明	不明	羽島下層?	M	K2, 27
7	暗青灰色	良	石英・長石・黒雲母少	胴部	縄文(単節RL)	不明	不明	不明	船元式	T	
8	明褐色	良	石英・長石少	口縁	沈線, 縄文(単節LR), 波頂部刻点	2?	B区1トレ	1・2	中津II式	K	
9	明褐色	良	石英・長石少	胴部	沈線, 縄文(単節LR)	2?	B区1トレ	1	中津II式	K	
10	明褐色	良	石英・長石・黒雲母少	口縁	沈線, 縄文(単節LR)	2?	B区1トレ	2	中津式	K	
11	明褐色	良	石英・長石・φ2mm程度の砂粒多	口縁	沈線	不明	不明	不明	中津式	K	
12	褐	良	石英・長石少	口縁	沈線	2?	A区1トレ		中津式	K	
13	明褐色	良	石英・長石少	胴部	縄文(単節RL)	2?	B区1トレ	2	中津式	K	
14	灰褐色	良	石英・長石少	胴部	沈線, 縄文(単節LR)	2?	A区	攪乱	中津式	K	
15	明赤褐色	良	石英・長石・黒雲母少	胴部	条痕, 沈線?	2?	C区1トレ	1	中津式または前期?	K	
16	赤褐色/明褐色	良	石英・長石・φ1mm程度の砂粒多	口縁	ナデ	2?	C区拡張	攪乱	後期, 無文	K	
17	におい橙	良	石英・長石多	口縁	条痕	不明	不明	不明	後期, 無文	T	
18	明褐色	良	石英・長石・φ1~2mmの白色粒多	底部		不明	不明	4層	後期	K	
19	褐色	良	石英・長石少	胴部	条痕	不明	不明	不明	後期	M	K2, 24
20	暗褐色	良	石英・長石少	胴部	条痕	2?	B区1トレ	攪乱	後期	K	
21	赤褐色	良	石英・長石	胴部	条痕のちなデ	不明	不明	不明	後期		
22	灰褐色	良	石英・チャート少	口縁	刻目突帯, 口縁刻み	2?	B区1トレ	1層	晩期	M	

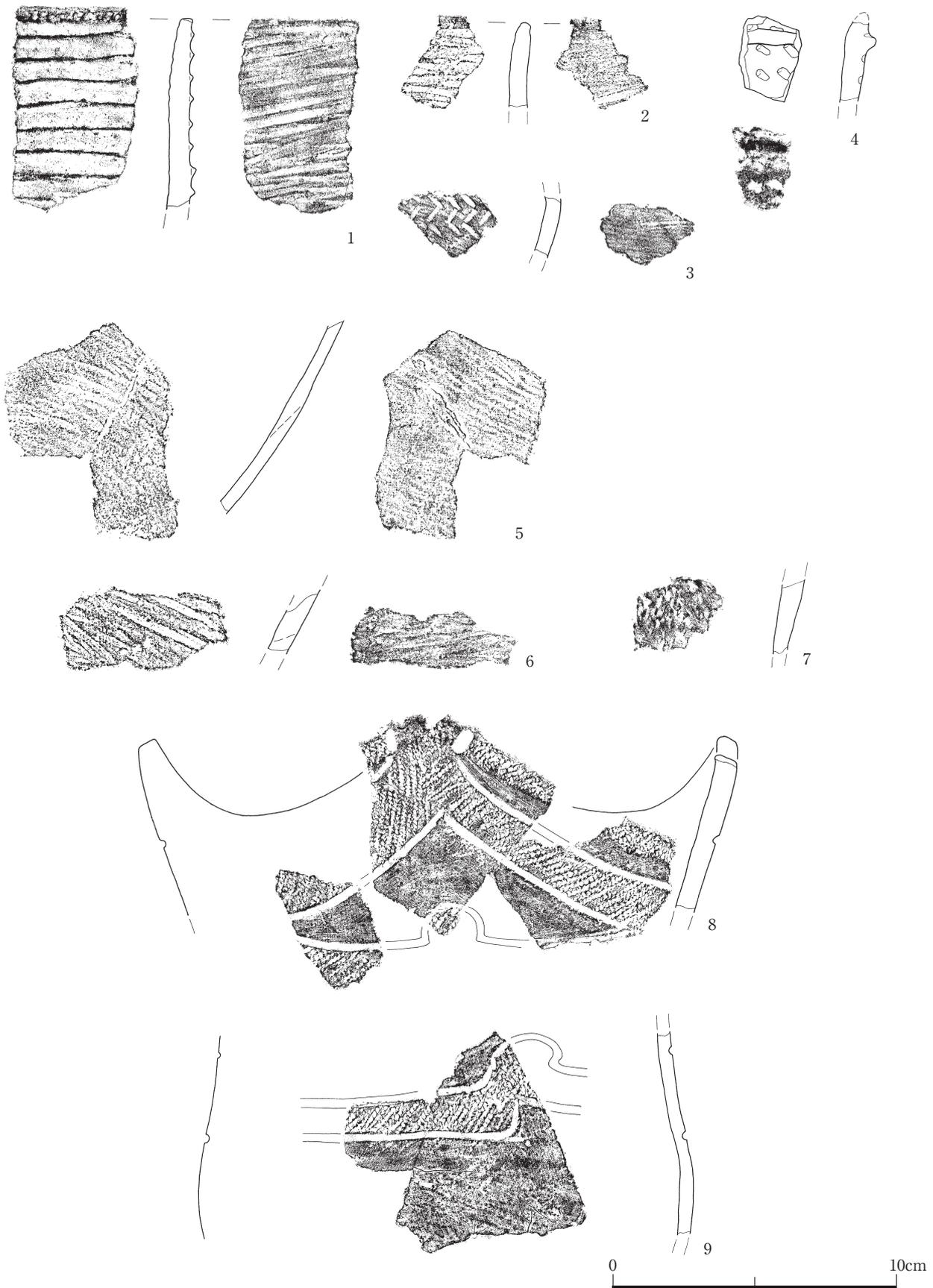


图64 6群土器 1 (S=1/2)

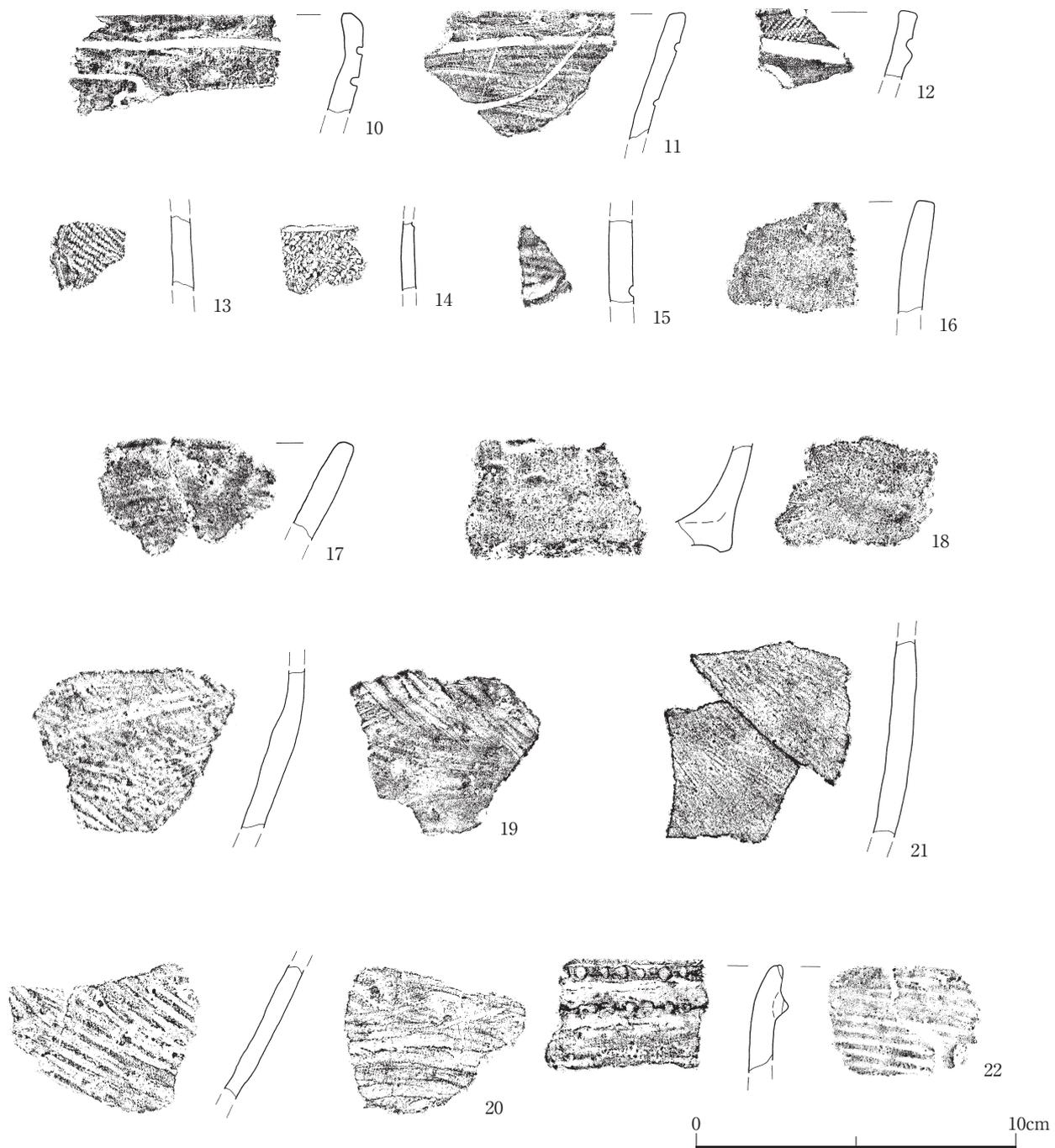


图 65 6 群土器 2 (S = 1/2)